

今日のトピック

## 2016年のユーロ圏経済の見通し

# 金融・財政の下支えで、消費主導の回復が継続

### ポイント1 15年は緩やかに回復

#### 物価は下振れ、金融緩和強化

- 2015年のユーロ圏経済は、金融緩和によるユーロ圏安や原油安の恩恵を受け、緩やかに回復しています。輸出や生産の回復が雇用や消費などへ波及し、消費は底堅く推移しています。
- 物価は、年初のマイナス圏を脱したものの、原油安の影響などから、目標とする2%近くを大きく下回っています。欧州中央銀行（ECB）は3月に開始した国債などの購入策を12月に拡充し、景気や物価を下支えています。

### ポイント2 16年は消費主導の回復が継続

#### 物価上昇率は目標を下回る

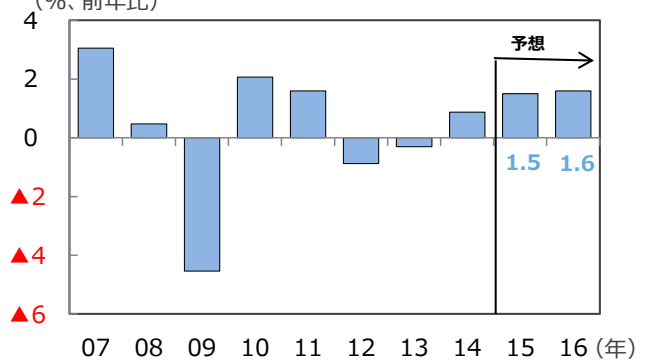
- 2016年の景気は、GDP成長率が+1.6%程度の緩やかな回復が継続する見込みです。資源国や新興国経済の減速で、輸出や投資が力強さを欠くなか、金融緩和や財政拡大が下支えとなり、消費主導の緩やかな回復が続くと見られます。原油安は総じて家計の購買力にプラスに働く見込みです。
- 景気回復が緩やかなことや原油価格が低位にとどまる見通しから、物価上昇率が大きく上振れることは難しそうです。

### 今後の展開

## 金融緩和や財政拡大が景気や物価を下支え

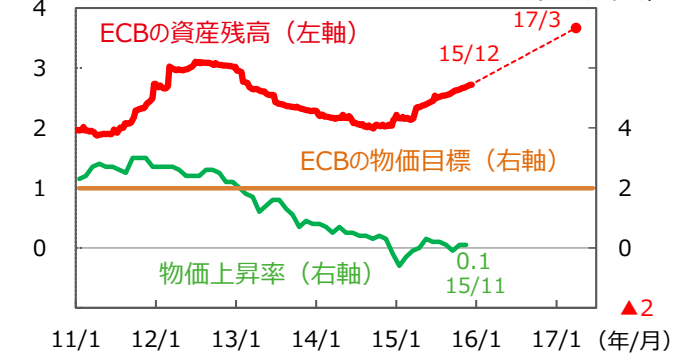
- 景気回復が緩やかで物価上昇率がECBの目標を下回る見込みから、追加金融緩和が予想されます。また、財政拡大も景気を支える材料となりそうです。
- ユーロの対米ドルレートについては、欧米の金融政

ユーロ圏の実質GDP成長率



(注) データは2007年～2016年。  
2015年以降は三井住友アセットマネジメントの予想。  
(出所) 欧州統計局のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ECBの資産残高と物価上昇率の推移



(注) ECBの資産残高は2011年1月7日～2015年12月11日。  
2017年3月までは毎月末に600億ユーロ増加するとして算定。  
物価上昇率は2011年1月～2015年11月。  
ECBの物価目標は2%近くで2%を上回らない水準。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

- 策の方向性の違いからユーロ圏安圧力が継続する見込みで、政治的な不透明感が強まる場合などには、さらにユーロ圏安圧力が強まりそうです。
- 株式市場は、強力な金融緩和や企業業績の拡大に沿い、底堅い展開が予想されます。

### ここも チェック!

2015年12月15日 2015年の振り返り（世界の債券市場）  
2015年12月10日 2016年の豪州経済の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。